

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

「過大・過密」を解消し 子どもたち一人ひとりを大切にする教育条件整備を

学校建設 看護師の定数外配置 学校予算拡充 10年研負担軽減などを訴え

2018年度

大障教本部交渉

12月25日、大障教は教育振興室長をはじめ、各担当課長と本部交渉を実施しました。交渉には、31人が参加し、学校予算、旅費予算の増額や学校の適正規模・適正配置等による教職員の負担軽減、看護師の定数外配置等による教職員の負担軽減、10年経験者研修の見直しによる負担軽減、「教職員の評価・育成システム」の廃止と「評価結果」の賃金リンク撤回などの重点要求について、担当課長の見解をただし、改善を求めました。交渉での主なやりとりを紹介します。

学校の「過大・過密」解消等による教職員の負担軽減

枚方支援学校分会は、12の特別教室を転用し、小学部の児童にさえも満足な教育環境を提供することができていない実態を訴えました。生野



府教委を追求する戸田委員長

支援学校分会は、スクールバスの駐車スペースがなく、登校時に公道に停めて子どもたちをバスから降ろすなど、常に危険と隣り合わせで、教職員はいつも気を張っている現状に対して、「目をつぶらずに、早急に学校建設を」と訴えました。

大障教は、「基本方針」では「過大・過密」の解消にはつながらず、今後増加する児童生徒1400人にも対応できないと訴え、基本方針の抜本的見直しを迫りました。

看護師の定数外配置等による教職員の負担軽減

毎年多くの教員枠を削って看護師を配置しているため、教職員に多大な負担を強いていることを訴え、看護師の定数外配置を求めました。

支援教育課の説明は、「平成27年度からは国の『切れ目のない支援体制整備事業』の補助金を活用して、高度医療サポート看護師を平成27年・

学校管理費・旅費予算増額等による

学校管理費を大幅に増額するなどして学校運営を円滑にする

教職員の負担軽減

し、教職員の負担軽減をはかることを求めました。施設財務課は、厳しい財政状況の中ではあるが、今後とも学校運営に支障がないよう、必要な予算額の確保にしっかりと努めてまいりたい」と説明しました。

また、旅費予算の不足によって宿泊行事の行先変更を迫られている実態や、家庭訪問の回数や人数をひとりに制限せざるをえない実態などを示し、旅費予算の確保を求めました。学校総務サービス課は、「府の財政は依然厳しい状況だが、今後とも引き続き生徒の安全管理や学校運営に支障をきたさないよう財源の確保に努めていく」と説明しました。

(裏面に続く)



労働者の雇用・賃金・労働時間の変動を明らかにするための毎月勤労統計調査は、政府が経済政策を策定する際の土台となるものです。失業給付の他、労災に遭った人が支給を受ける休業補償の額を決めるための基準などにも使われます。

この「毎月勤労統計調査」のデータが偽装され、約2千万人分の雇用保険など537億円を超える不払いが発生していたことが明らかになりました。同調査は、500人以上の事業所すべてが調査対象だったにもかかわらず、東京都では2004年から約3分の1の事業所しか調査されていませんでした。賃金が高い傾向にある多くの大規模事業所の実態が結果に反映されなければ、平均賃金額は実際より低く出ます。厚生労働省は、実態より0.6%低くなっていったと推計しています。当然、それをもとに算出される雇用保険や労災保険の給付額も値切られています。

1月11日の記者会見で、心からおわびすると表明した厚生労働大臣は、組織的な隠ぺい疑惑については否定しました。しかし、昨年6月には、従業員500人以上の事業所調査を東京都と同様の手法に切り替えるとする文書を、神奈川県・愛知・大阪に発出しています。今さら言い逃れはできません。

なぜデータの偽装が行われたのか、適正な方法で再計算すればどのような数値になるのかなど、肝心なことは一切公表されない中で、政府は、雇用・労災保険の追加給付に必要な費用を手当てすると称して、2019年度予算案の修正を1月18日に閣議決定しました。28日召集予定の通常国会での、徹底的な真相究明が求められます。

(表面よりの続き)
腰痛予防検診の改善

毎年教職員数が増えているにもかかわらず、アンケート提出数が減り続けている実態を示し、すべての検診対象者への配布と制度趣旨の周知徹底を求めました。福利課は、「精密検査が必要な職員は受診をしていただいているものと認識している」「実施する必要のある方すべてが受診していたら、腰痛検診対象者へ腰痛予防検診アンケートを配布しているところであり、引き続き周知徹底していききたい」などと説明しました。

大障教は、検診そのものへの信頼性を高めるためにも、受診者が納得する客観的な判定、ドクターによる

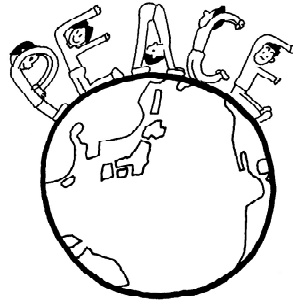
給食厨房の施設改修

空調設備と検収室について、環境改善が必要な学校が多く残っている実態を示し、具体的な改修の見通しを示すよう訴えました。保健体育課は、「毎年実施している各学校への巡回指導の際や学校からの要望に基づき、衛生面での必要性など

ろう学校9条の会

同僚やOBと平和について考える素敵な時間
無理せず、絶やさず、続けていくことが大切

「ろう学校九条の会」のとりくみとして、12月1日に開催された「核兵器なき世界へ」映画とトークのつどいに参加しました。また、集会の前後に交流の時間を設け、近況報告や平和への思いを出し合うなど、素敵な時間を過ごしました。



2006年から続けている九条の会のとりくみ

中央聴覚支援学校(旧市ろう)の職場では、分会での平和のとりくみや有志での平和ツアーをずっと昔から続けてきました。

2004年に大江健三郎さんたちが「九条の会」を発足させ、それに呼応して、2

006年から「ろう学校九条の会」として活動をはじめました。活動の内容は、講師を招いて平和について考える学習会のほか、沖縄や長崎、広島

島の戦跡めぐりや平和資料館など、平和学習に出かけたメンバーからの報告を受けたり、憲法居酒屋をひらくなど、年に1〜2度のペースで活動しています。

OBと過ごせる楽しい時間

今年は、日程の確保がうまくいかず、開催がややぶまれていましたが「核兵器なき世界へ」映画とトークのつどいへの催しに参加するというメンバーがいたので、今回はこの集会に参加し、「核兵器・平和・憲法」について考える機会にしようとして、あまり時間はありませんでしたが、会員に呼び掛けて準備をすすめました。また、とりくみの都度、ランチ交流など、食事をとりながらそれぞれの近況などを話しあうことも、「ろう学校九条の会」の恒例になっています。今回も少し早めに集まり、エルおおさか近く

のイタリアンでランチをとりながら、ワイワイガヤガヤと交流をしました。職場では「今度はいつあるのかな?退職された〇〇先生に会いたいし」と声をかけられることもあり、分会のOB会的な役割も果たしています。今では、北視覚支援学校や東住吉支援学校、東淀川支援学校などに転出したメンバーが職場の同僚と一緒に参加してくれることもあり少しずつ広がっています。今回のとりくみには、OBを含め13人が参加しました。

次のとりくみアイデアぞくぞく

自前で講演会や平和ツアーを企画できるときもあれば、今回のように、みんなイベントに出かけることもあります。無理せずできる形で、絶やさず、続けていくことが大切かなと思っています。

で、今度は「平和を歌う」のようなどりくみはどうだろうか?とか、「真田山の陸軍墓地でのフィールドワークはどうかな?」や「大障教の大先輩、藤野高明先生の話をお聞きたい」など、次への希望とアイデアも出てきました。

集会后に感想などを出し合うと、「今日、聴いたキー・シュガーさんのピアノの弾き語りがすごくよかったの

これから、「ろう学校九条の会」、元気に活動していきます。



ろう学校9条の会のみなさん

【感想です!】

今回は初めての企画で、映画を見て平和を学ぶことができるというものでしたが、映画も映画監督のトーク、そしてピアノ演奏とどれも感動するものでした。長崎の悲惨な状況は人が人でなくなってしまう核爆弾の凄さに何度も涙が出てしまいました。平和の尊さを改めて実感し、子どもたちを決してあんな悲惨な目には合わせたくありません。今回OBの方々も含めて13名の参加でしたが、もっとたくさんの方々に見たかったと思い残念でしたが、夜はOBの方々の近況や今回の感想を出して交流会もできました。また来年も「ろう学校9条の会」を企画し、平和について学習したいと思います。

(次号に続く)